

2 . 福井におけるバスマップの普及状況と効果

2 - 1 福井におけるバスマップの普及状況

初版は、9 0 0 0 部を発行し、表紙付 B 2 版が 5 6 0 0 部、B 3 ミニ判が 8 0 0 部、合計 6 4 0 0 部を利用者に届けることができた。

ただ、ミニ版の作成が作成方法などの問題があり大幅に遅れたため、当初予定していた小中学校への配布ができなかった。

初版の発行：2 0 0 3 年 4 月

	表紙付 B 2 判 6 0 0 0 部	B 3 ミニ判 3 0 0 0 部
公共機関小計	3,970	0
県バス協会	1,800	0
県総合交通課	1,000	0
市総合交通課	1,000	0
県環境政策課	170	0
書店他委託小計	1,115	468
書店	669	268
福井大学	0	100
京福バスターミナル	386	0
福鉄武生新駅	60	0
駅前商店	0	100
イベント小計	121	97
県外ほか小口小計	261	115
渉 外（会員向け含む）	145	80
総合計	5,612	*760

* 小学校配布予定 1 5 5 0 部（実施できず）

第2版は、11000部発行し、現在のところ大判5300部、ミニ判4100部、合計9400部が利用されている。

ミニ判の作成方法を改良して制作コストを削減した小中学校への無料配布・活用、福井大学および福井県での交通調査資料への活用、および県バス協会でのバスの日の配布資料としての活用が、発行部数を伸ばした原因である。

また、県内外のシンポジウムで約100部、県外の市町村、大学研究室からの問合せで約50部送付しており、全国とのネットワークも拡大してきている。

第2版の発行：2004年9月

(2005年2月現在)

	B3判2枚組 6000部	A4ミニ判2枚組 5000部
公共機関小計	3,800	3,160
県バス協会	1,000	0
県総合交通課	1,600	500
市総合交通課	1,000	0
市教育委員会	0	*2,000
県都市計画課	**200	0
福井大学	0	**660
書店他委託小計	(1200部を委託中)	0
書店	800	0
京福バスターミナル	300	0
福鉄武生新駅	100	0
イベント小計	94	800
県外ほか小口小計	98	30
渉外(会員向け含む)	145	110
総合計	5,337	4,100

* 福井市内小中学校に無料配布、総合教育で活用

** 福井大学および県の交通調査資料として配布

2 - 2 福井におけるバスマップの普及効果

(1) 小中学校の総合教育教材としての活用と子供への普及

福井市教育委員会の協力の下、福井市立小中学校（全70校）へ「のりのりマップ」を各20部ずつ配布し、総合教育の教材としての活用方法を検討していただくこととなった。

このうち、福井市大安寺小学校6年生が、福井市中心部のバスを利用した社会見学に利用することになった。

平成17年1月19日（水）教室で、「のりのりマップ」を使って自分たちでバスのルートを探し、3つの路線が利用できることを知った。さらに、このマップと連動している公共交通時刻表「ばすでんしゃねっと・ふくい」を使って利用時刻などを検索し、該当する時刻を絞り込み、具体的な行動計画を立てた。この際、ROBAの会員2名が、「まちの先生」として授業の支援を行った。



「のりのりマップ」を使ってルートの検討



MAPをどのように作ったかを教える会員

平成17年1月26日（水）午前中、小雨が降る中、マップを片手に指導教官1名、児童11名で社会見学が実行された。（・・・徒歩、・・・バス）

大安寺小学校・・・バス停 福井駅前・・・福井県庁（城址）・・・国際交流会館・・・
福井市歴史資料博物館・・・福井城址（お堀）・・・京福バスターミナル バス停・・・
大安寺小学校



福井駅前でバスから降りる児童



お堀の周りを歩く児童と見守る彫刻

まち歩きには、マップの中にある「福井市中心部拡大図」を使用した。

なお、ROBAのメンバー2名も、いっしょにマップからルートを読み取る作業をおこなった。そのなかで、途中でコミュニティバス「すまいる」に乗り換えてまちめぐりをするルートを発見したが、時間の都合上実施できなかった。しかし、正確なマップによるルート検討の有用性を改めて実感することができた。

また、総合教育の中で子供たちが公共交通マップに親しみ、実際に公共交通の利用を体験することで、将来の利用にあたって「乗り方がわからない、乗ったことがない」などの抵抗が少しでも緩和されるものと考えられる。

< 参考資料 1 >

小中学校への配布案内、配布状況

(2) 大学のMM研究調査における活用と一般市民への普及

福井大学工学部建築建設工学科川上研究室では「意識面への働きかけによる交通行動変容の可能性に関する研究」を行っており、クルマ利用適正化および公共交通利用促進MM（モビリティ・マネジメント）調査において、事実情報提供のツールのひとつとして「ふくいのにのりマップ」を使用している。提供ツールとは、

- ・「かしこいクルマの使い方を考えるプログラム」パンフレット
- ・過去の意識調査結果
- ・「ふくいのにのりマップ」

であり、ここで「ふくいのにのりマップ」は、「福井県内全ての公共交通を網羅した路線図で公共交通の実態についてわかりやすい正確な情報」という評価を得ている。

調査は、平成16年10月に調査を実施しており、「ふくいのにのりマップ」は660部使用されている。

この調査では、自分が利用可能な公共交通の手段およびルートを検討し、さらにそれを実際に利用したかどうかを追跡調査するものであり、これまでの研究でも、調査実施者には確実に普及効果があることが実証されており、研究調査という意味合いとともに、確実な普及効果も狙える手段だと考えられます。

< 参考資料2 >

「地方都市における意識面への働きかけによる交通行動変容の可能性に関する研究」
福井大学工学部建築建設工学科川上研究室 川口 充康

(3) パーソントリップ調査における活用と一般市民への普及

福井県が平成 16, 17 年度で実施する、福井都市圏総合都市交通体系調査において、モビリティ・マネジメントを考慮したコミュニケーションアンケートを実施することになった。その際に、交通行動の変化を促すツールとして、動機付け冊子とともに、「のりのりマップ」が採用されている。(この方法は、福井大学の研究と同じである。)

「のりのりマップ」に期待されている役割は、調査対象者が利用したい最寄のバス停や鉄道駅、ルートなどを正確に把握でき、マップと連携している公共交通時刻表ホームページ「ばすでんしゃねっと・ふくい」とあわせて利用することで、自動車から公共交通利用への転換を図るためのきっかけをつくることである。

平成 16 年度調査では、平成 17 年 1 月に、200 票のアンケート調査を実施した。また、平成 17 年度調査では 2 ~ 3000 票を想定している。

この調査によって、少なくとも福井都市圏の 3000 世帯で、「のりのりマップ」を利用して、公共交通の活用方法について検討され、実際に公共交通への利用転換の試みが行われることとなります。

このように、あらゆる機会を捉えて公共交通の情報提供を行うことで、普及効果が目論まれます。

< 参考資料 3 >

「モビリティ・マネジメントに関するプリサーベイ結果」 福井県土木部都市計画課

(4) のりのりマップを使った公共交通利用者への普及

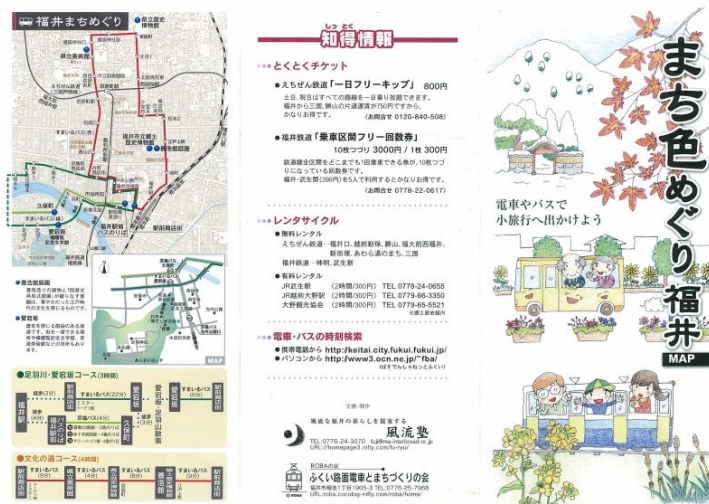
・まち歩きマップ「まち色めぐり・ふくい」

行動をサポートするに過ぎないマップを、行動を喚起するマップとして進化させたのが、2002.10「ふくい秋色のまちめぐり」、2004.9「まち色めぐり・ふくい」である。福井のまちの行ってもらいたいところを、公共交通と一緒に案内するものであり、全国規模の大会(それぞれ全国JC大会、全国スポレク祭)に先駆けて発行した。

福井の見所を公共交通マップと一緒に、全国からの来県者に紹介することで、「わかりやすく、楽しそうだ」と好評で、公共交通の普及効果は非常に高くなるものと考えられます。



2002.10「ふくい秋色のまちめぐり」



2004.9「まち色めぐり・ふくい」

・HP時刻表「ばすでんしゃねっと・ふくい」

・・・バス電車利用者への総合情報提供サイト

マップで不足する、時刻情報を提供するために、福井県総合交通課が作成し、福井県バス協会が管理する公共交通時刻表の作成を支援しました。

必要な時刻表をよりはやく入手するためには、公共交通マップからの検索が不可欠であり、それらと連携するためのマップデータを提供するとともに、作成についても支援した。また、その後も引き続き、維持管理を支援している。

時刻表は改訂の機会が多く、松江の「どこでもバスブック」ような時刻表冊子を提供する方法も考えられるが、福井県内を対象としているため、H16年だけでも10数回の改訂が各地で行われ、正確な最新情報を提供することが、普及の基本原則でありホームページでの随時更新が適しているといえます。

また、公共施設へのアクセス・地域時刻表は、各施設からのリンクも増え、今後、施設利用者による公共交通の普及に、その効果が目論まれます。

ばすでんしゃねっと・ふくい

—お知らせ・更新情報— —路線・時刻の改正年月日—

2006/03/01
3月1日 JRのダイヤ改正がありました。電車の時刻表(リンク)、公共施設へのアクセスを修正しました。

毎月1日、16日は、ノーマイカーデー！
雪の日こそ 公共交通機関を利用しましょう！

使い方:各メニューの上にカーソルを持って行くと、詳しい解説が飛び出します。そのままクリックしてください。

- バス・電車の時刻表**
 - バス電車の時刻表 (市町村一覧)
 - 主要市街地路線図・時刻表
 - 福井市街地路線図・時刻表
 - 街なかお出かけ時刻表
 - 街なかお出かけ時刻表(福井市)
- 公共施設へのアクセス**
 - 公共施設アクセス (市町村一覧)
 - 公共施設の検索 (市町村別)
 - 高校・大学へのアクセス
 - 主要施設周辺の時刻表
 - 主要施設周辺の時刻表(福井市)
- ふくいの高速バス**
 - ふくいの高速バス
 - ふくいの空港連絡バス
 - ふくいの観光バス
 - 福井駅前バス乗り場案内

バス会社のサイト・リンク

- 観光バスの案内 (県バス協会会員各社の連絡先・HP)
 - 京福バス
 - 福鉄バス
 - 日本バス協会
- 鉄道乗り継ぎ情報・リンク
 - 電車乗り継ぎ情報 (北北せん線区)
 - 電車乗り継ぎ情報 (福井線区)
 - 鉄道乗換・乗継情報
 - 小浜線沿線情報
 - JR西日本各線各駅情報
- 安心な交通サイト・リンク
 - ふくいのりのりマップ (ROBAの会)
 - バス接近情報 (福井市:すまいる)
 - バリアフリー時刻表 (福井市)
 - バリアフリー情報 (県内主要施設)
 - バリアフリー情報 (全国版説明)

福井の観光案内・リンク

- 観光イベント総合案内
- ふるさと・まちづくり情報
- 若狭のとれたて情報
- 若狭路観光情報

福井へのアクセス・リンク

- 福井へのアクセス案内
- 県外からのアクセス案内
- 観光・宿泊の案内

その他交通サイト・リンク

- ノーマイカーデー (毎月1日16日)
- パークアンドライド駐車場
- 洗滞解消社会実験 (～1226終了)

運営:(社)福井県バス協会
〒918-8023 福井市西谷1-1401 福井県自動車会館
TEL 0776-34-1730 FAX 0776-34-1748

制作:福井県総合交通課
〒910-8580 福井市大手3-17-1 県民生活部
TEL 0776-20-0291 FAX 0776-25-9871

時刻等の問合せは
事業者各社まで

このページはリンクフリーです
リンク先は <http://www3.ocn.ne.jp/~tba/>
ページはあきらまじょうをご利用ください

このページの感想や
ご提案はこちらまで

Copyright 2004 BUS-DENSYA-NET FUKUI. All rights reserved. 00000000

ホームページ「ばすでんしゃねっと・ふくい」

3 . バスマップの作成、充実、普及における今後の課題

(1) バスマップサミットのまとめ

第2回バスマップサミットの各地の代表者によるパネルディスカッションにおいて出だされた今後の課題について、以下に整理する。

< 参考資料 4 >

バスマップサミットのパンフレット

バスマップサミットでのまとめ

バスマップを作成する上での課題や、問題点を次の8つの観点について各地区の状況や体験を踏まえて発言。
 1) バス停の位置、2) ルート、3) 乗換案内、4) 料金、5) 時刻表、6) 縮尺、7) 公共施設、8) 販売方法等について
 各地区から

	岡山 (FACDA)	広島 (LRT 部会)	福井 (ROBA)	松江 (まちかど研究会)	岐阜 (岐阜未来研究団)	仙台 (都市政策フォーラム)	その他
1. バス停の位置、内容、調査方法等	<ul style="list-style-type: none"> 情報の入手はバス会社 現地調査を行って検証(地図上と実際の位置が違っていたことを発見) 	<ul style="list-style-type: none"> 情報の入手はバス会社 現地調査は好きな方からの情報を採用 	<ul style="list-style-type: none"> バス会社に情報がなくて、福井市街地の現地調査で検証 ROBA認定優良バス停を表示 	<ul style="list-style-type: none"> バス会社からの情報を得られず、住宅地図、現地で調査 てくてくマップにバリアフリー情報を掲載。(屋根、段差、椅子、接近情報、点字B等) 入れ込む 	<ul style="list-style-type: none"> 市販地図とバス会社のマップを基本とする 自転車で全バス停を調査 周辺情報、コンビニ、WCを 	<ul style="list-style-type: none"> バス会社より入手 上下線でバス停が違うのも正確に表示 	
2. ルート	<ul style="list-style-type: none"> 方面別に数字をつけた(フォートランドを参考に) 	<ul style="list-style-type: none"> 車体自体が方面別に色分けがされておりマップのデザインに適用 ランドマークとなっている(ラッピングやデジタルになると識別が難しい) 独自番号では利用者が迷う。 	<ul style="list-style-type: none"> バス会社が北西を起点とし、右回りでつけた番号を採用 3桁はROBA側でつけた 県内編では、発着駅別に系統的にNoをつけた コミバスは5~700番台。 	<ul style="list-style-type: none"> 2社しかないのに統一できない 同じ方面なのに1、14と紛らわしいのに統合する気はないようだ 	<ul style="list-style-type: none"> 中心から左回りでNoをつけた 右側には山があるための処置 同じルートに系統Noが数字とひらがなが混在している 	<ul style="list-style-type: none"> 方面別に色分けして表示 	<ul style="list-style-type: none"> 名古屋の場合、会社別に駅ごとに分けてつけた バスのダイヤ改正後10月と4月の2回改訂となる 印刷物は紙くずとなる可能性がある。 リアルタイムでやりたいのでWebで対応している
3. 乗換案内情報	<ul style="list-style-type: none"> 2箇所のバスターミナルで乗り換えている 相手側の路線もあるのでまだ調整できてない P&R (バス) 情報を掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 停留所に独自でNoや乗換案内をつけ、乗り換え文化を提案。後にバス協会も参考にした いかに混雑しているかを示したかった 乗り換えると20円割引く制度がある 	<ul style="list-style-type: none"> 乗換可能な駅を○で地図上に落とし 乗換情報としてその駅で利用できる地域時刻表を作成し進化させた P&Rを表示 		<ul style="list-style-type: none"> 乗換ができないことを表示したい 		
4. 料金	<ul style="list-style-type: none"> 500円で自由に乗降できるようにしたい (アクション5で提言) 	<ul style="list-style-type: none"> ゾーン運賃制を意識して乗換案内情報を提案した 	<ul style="list-style-type: none"> 料金を載せると高いというイメージが出てきて事業者いやがる傾向にあるので掲載していない(特に郊外部) 	<ul style="list-style-type: none"> マップ上に記載。 松江駅を起点として終点までの運賃のみ。 			
5. 時刻表 運行頻度表現	<ul style="list-style-type: none"> FACDAのホームページからみれるが、重いので評判がよくない 運行頻度表示なし 	<ul style="list-style-type: none"> 10分間隔が基準、待てば来るのか、それとも時刻表を見るのかの区分をしてる 3段階区分 	<ul style="list-style-type: none"> 時刻表はHPで提供 ばすでんしゃねっと・ふくいマップデータを活用して一体的な使い勝手を高めている プリントアウトして持ち運び 1時間1本を基準にせざるを得ない、3段階表示 	<ul style="list-style-type: none"> バスブックで、すべての路線の時刻表を路線図とあわせて掲載 	<ul style="list-style-type: none"> 1色すりなので表現上は楽であった 	<ul style="list-style-type: none"> 色分けの方法もあるが、文字・数字で表現 	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムでやりたいのでWebで対応している
6. 縮尺・地形・表現	<ul style="list-style-type: none"> 普通の地図としてまち歩きにも使えるように道路、建物表示をしている 	<ul style="list-style-type: none"> 15社×6種類の区分となると大変多くの凡例が必要。 国土地理院の地図をスキャンして作業した図に使用 周辺部は地形図に則っていない 等高線は入っていないが、川が地図上のランドマークである 	<ul style="list-style-type: none"> 完全な地形図に路線を落とししている。国土地理院の了解をとりつけた(1色でOK) グリッドを設けて、スケールバーで表示。インターネットでみるので縮尺は入れてない 	<ul style="list-style-type: none"> マップはデフォルト ブックには正確な路線案内図を掲載 			
7. 施設表記、案内	<ul style="list-style-type: none"> 学校など主要施設を表記 公共施設の索引一覧 中心部建物を立体表示 国体施設のマーク表示 地名のローマ字表記 	<ul style="list-style-type: none"> 建物はイラストで表現、特色のある施設のみ 	<ul style="list-style-type: none"> 学校、病院を表示。その記号については国際標準に準拠 公共施設の索引一覧 車椅子用トイレを表示 	<ul style="list-style-type: none"> 主要建物イラスト表記 施設名称ローマ字表記 		<ul style="list-style-type: none"> デパート、買い物バッグなどをアイコンで表示。 ビジネス街、ホテル、交番、郵便局、病院などを表示 	
8. 販売方法	<ul style="list-style-type: none"> 100円/冊 原価30円/冊 印刷屋をメールで入札 年2回50万円の補助をもらっている 	<ul style="list-style-type: none"> 300円/冊 費用負担は行政、事業者からは0 環境財団より3年間100万円/年の補助を受けている 	<ul style="list-style-type: none"> 200円(協賛金として) 県、市、バス協会から定期購入予約 	<ul style="list-style-type: none"> 創刊号は広告料主体で無償 定価をと言われ、200円に商業魂が必要 岡山は800円でもいいのでは? 			

(2) マップの作成について 協働による正確な公共交通情報の提供

事業者、行政、NPOの協働による制作と運営・維持管理

マップ作成に果たすNPOの役割は、事業者や行政の枠を超えた公共交通及び利用施設を、利用者の立場から使いやすく統合化したり、利用しにくいところをまとめたりすることだと考えられる。

ただ、各地の取り組みではNPOに対する事業者や行政からの情報提供が少なく、NPO独自の基本情報の収集からスタートしている現状もみうけられる。また、すでに作成しているところでも、改定情報を事前に入手するシステムができているところは少ない。

また、マップ作成の過程で見えてきた問題点の公共交通施策への反映も、今後重要な事項である。

そのためには、

・行政国県市、事業者、NPO、利用者による公共交通懇話会の運営の必要性

マップ作成から見えてきた問題点の意見交換により、公共交通施策への反映ができるように話し合いの場が設置されることが望まれる。

平成15年度全国都市再生モデル調査の「アドバイザー会議」で国、県、市、事業者とNPOが同一のテーブルで公共交通の活性化による都市再生街づくりについての協議を2回行うことが出来た。このときは調査報告書の内容について検討をする会合でしたが、公共交通というテーマでこのように関係者が一同に会することは非常に有意義であると実感した。

・交通事業者（行政を含む）からの変更情報の早期提供

マップ作成後の維持管理において最も重要なことは、速やかな改訂情報を利用者に提供することであり、そのためには、交通事業者からマップ製作者に正確な情報を早期に提供できるシステムの確立が必要である。（協働作業意識の育成）

・改定時期の調整

路線や時刻表の変更については、最初に基幹交通であるJRが変更し、それに次いで路面電車や地方鉄道が改訂し、更に接続を考慮してバスの時刻表の見直しが行われるケースが多い。利用者にとっては転居や進学など利用交通手段が変わる4月初旬には、マップや時刻表の全ての改定が終了し、これらの新しいユーザーが入手できる必要がある。

しかし、現状では改訂に即座に対応した情報入手ができず、新しい生活スタイルの中に公共交通の利用を取り入れてもらえず、せっかくの機会を逸しているものと考えられる。

これらを解決するには、事業者、行政、NPOの協働による制作と運営・維持管理を行うことが、不可欠である。

発行、更新等の費用の捻出と負担

・ボランティア作業に依存した発行

これまでにマップを発行してきた NPO のマップの大半は、一部行政の支援を受けているものの、自費出版である。

本来は、公共交通施策の一環として行政が責任を持って作成し、それを NPO が利用者の意向を反映できるように支援する体制が必要である。しかし、その体制作りが待ちきれず、各地で NPO が作成に乗り出したのが現状である。

作成作業は NPO のボランティア活動に依存しており、ほとんどの作業部分が無報酬である。作成資金ばかりか、印刷費用にまで苦慮しているしだいで、印刷費の一部に公的支援を受けているところもあるが、まったく自己資金でまかなっているところも多い。総作業量から見積もると1千万円ともいわれているが、実態は準備作業が無報酬、版下取りまとめ+印刷費が100万円程度で発行されている。

たしかに、発行時はやる気が出ているのでいけいけのムードがあり、何でもできてしまうような錯覚を起こしがちになる。しかし、その後改訂更新するための課題が最も大きく、特に経費については各NPOも必死に計画をたてなければならない。各種の助成事業を見つけて入手するケースもあるが、その都度探していてもなかなかあるものではない。毎回不安を抱えながらの改訂作業となっている。

・公共交通施策の中での位置づけの明確化

一方で、公共交通の活性化施策を行政がおこなっており、これらの施策の中で公共交通マップの作成を明確に位置づけて、定期的に担う必要がある。

その担う方法はいろいろ考えられるが、助成金や補助金などによるNPOへの直接委託、または、群馬県での交通マップ(道路マップ+公共交通マップ)、世田谷区の防災マップと公共交通マップの抱き合わせの印刷などのようないろいろな方法もみられ、行政での支援の工夫も必要である。

また、のりのりマップの第2版A4サイズのミニマップは、行政の広報誌や雑誌への折込も意識して作成しており、多様な提供方法を検討すべきである。

- ・定期資金助成、
- ・定期購入(福井)
- ・広告(松江)など

(3) マップの充実について

欲しい情報の提供は、行動の安心と拡大をもたらす

バスマップの備えるべき要素と表示方法

・掲載すべき情報

バスの本数の多い少ないで表現の方法は違ってくる

広島・岡山・仙台などの運行本数の多い地域のマップ

(あふれる情報をいかにみやすく掲載するか)

松江・福井などの運行本数の少ない地域のマップ

(少ないが丁寧な情報をいかに使いやすく提供するか)

・表示方法の標準化について：いいとこ取り型標準化

他のマップのいいところを利用させてもらって、次第に標準化していく

各都市によって特色のある記号を提案して、発信することでわかりやすい、使いやすい表記が工夫できる。それをよいと考えたほかの地域が利用していくことで、自然に標準化していく方法をとっている。ただ、国際標準記号化の動きもあり、そこにある記号については、なるべくそれに準拠することとしている。

例えば、「バスを待つ空間=バス停」を快適なものかどうかについて判定した表示はどこにもないので、これを少なくともバスマップを作成しているところだけでもつくっていくことから、標準化の道程は始まるものと考えている。

いいデザインのマップは、公共交通の使い方さえ変える力を持つ。

・利用者による利用者のためのマップ

(事業者の路線図：どこを走っているか初めての人はわからない、他の情報がない)

使う人のためになるマップがほしい

(初めてでもわかる、バスを降りてからも使える)

いつも乗るバスだけでなく、時々使うバスや電車も一緒に

(違う使い方も発見できる、乗り継ぎも)

使いたい施設も載せる

(バスや電車はあくまでも移動の手段にすぎず、目的地とその周辺の情報が載っていて、そこまでのいくつかのルートがわかる)

いろんな使い方を伝える

(マップを見て新しい発見ができる)

使う人の声を反映しながら常に進化する

(P & R 駐車場やレンタサイクル、 R O B A 認定優良バス停、多目的トイレ)

まちをよく知らなきゃ、使う人のことをよく知らなきゃ

・その他の情報の記載について

公共交通利用促進のための情報リンク

(県内観光案内、交通施策案内など)

バス電車の時刻表 (参考: バスブック)

(マップで表記できない時刻表をインターネット「ばすでんしゃねっと・ふくい」
で提供: コミュニティバスも平日定期運行するものは全て掲載、使えないものは載せない)

公共施設へのアクセス情報

(目的の施設へ移動するための案内、情報を提供)

「官公庁(市・県・国)・文化施設・などの多目的施設公共公益施設、大学高校、
病院、ショッピングセンター、温泉・宿泊施設(県民手帳の施設一覧を掲載)」

地域時刻表

(俺流に時刻表をまとめてみると、さらに使いやすくなる)

「のりのりマップ」との連携

(地図から探せるわかりやすさ)

マップの応用

・イベント開催とアクセス案内

岡山国体施設掲載マップ

福井スポレク祭開催時発行のまち歩きマップ

岐阜サミット会場周辺案内マップ

・まち歩きマップとの融合

まち色めぐりふくい(公共交通を利用したまち歩きマップ)

(4) マップの普及について

必要な人に、必要なときに、いかにすばやく提供できるか

マップの設置場所

- ・事業者（ターミナル）
- ・行政（行政案内所、公共施設）
- ・一般（観光案内所、書店等）

・バスマップセンター

日本中のバスマップ（ある一定の基準以上のもの）を一同に集めたセンターが必要であろう。

多くの自治体からの問い合わせがあり、技術的な観点で他地区の事例を欲しいかたも、マニアの方も含めていると思われる。

また、旅行や出張で出かけて行くときに、その地方のバスマップがあると安心すること請け合い。そのためにも行政が主体となって、是非設置していただきたい。

マップの配布の機会

- ・観光情報とのタイアップ：観光マップとしての資金・普及ルートの確保
- ・イベントとのタイアップ：会場案内マップ、アフターイベント案内資料
- ・総合学習とのタイアップ：子供を通じた教育普及、教材としての資金確保

・イベント開催とアクセス案内

イベントについては、より多くの方に参加してもらうことが肝要です。その意味で、公共交通の利活用は喫緊の課題です。また、イベント情報などは、民間ではなかなか入手できないことが多い。そこで、協働の精神に則って、「イベント開催の情報」をもらい、その中でアクセス案内をさせてもらうような仕組みをつくっていくことが重要となる。

ホームページの活用による普及

「のりのりマップ」A4版ミニサイズはホームページからもダウンロードできるようになっています。大きいサイズが必要な場合は各設置場所で入手する（または申し込む）という、2段階での提供方法を取っている。

また、時刻表については、「ばすでんしゃねっと・ふくい」をホームページで開設している。県が当初作成を行い、県バス協会が運営し、ふくい路面電車とまちづくりの会が運営支援を行っており、また、事業者サイトとのリンク、行政のコミュニティバスサイトとのリンクなどの協力体制が構成されている。

リアルタイムでの改訂情報の提供が可能となっているが、まだまだ、数日程度遅れ気味なのが現状である。

(5) マップづくりはまちづくり

良いマップの提供は、公共交通の利用の仕方を変える
つないで生きるホジロバ交通

- ・・・歩自路バ交通をつなぐことが、地域と地域をつなぎ、人と人をつなぐ
歩行者・自転車・路面電車・バスをつなぎ合わせ
マップで統合化して提供することが、大きな力を生み出す

地域で支える公共交通まちづくり

駅をもう一度まちづくりの中心に取り戻す 新しい「駅(えき)」

- ・駅をお店やコミュニティ施設にできないか？
- ・バスにも駅があってもいいだろう：バスの駅を地域で運営・支援できないか？
- ・道の駅などの既存施設を活用して新しく駅をつくれませんか？

ハード整備を訴える住民運動(陳情)は交通施設を豊富にするが

協働の交通まちづくりは住民の生活を豊かにする

のりのりマップを使ったまち歩きマップ「まち色めぐり・ふくい」

行動をサポートするに過ぎないマップを、行動を喚起するマップとして進化させたのが、風流塾と共同作成した2002.10「ふくい秋色のまちめぐり」、2004.9「まち色めぐり・ふくい」。福井のまちの行ってもらいたいところを、公共交通と一緒に案内するものであり、全国JC大会、全国スポレク祭など、全国規模の大会に先駆けていずれも発行した。

JRでも、駅から歩いていける観光施設を『歩けるマップ』を作成しはじめており、利用促進を図ることことを目標としている

公共交通を使って、アーバンツーリズムを促すためにも、まち歩きマップの必要性がある。また、まち歩きは、まちづくりとも連携するので、いろいろなタイプのマップがありうる。例えば、商店街なら「おもしろ店」の案内、文化なら「彫刻のあるポイント」とか、その用途、目的によってまちまちである。

～マップを創ることで、まちの様子が見えてくる～

協働による新たな取り組み

- ・鯖江市「新しいコミバスを考える会」の取り組み

ルートの検討(利用実態に合わせたルートの統廃合の検討、基幹ルートの設定)

コミバス市民フォーラムの開催(2回)

コミュニティバスだけでは成り立たない

基幹軸となる鉄道や基幹バスと補完しあうこと、歩行者や自転車とくみあわせることで、日常生活の中でコミュニティのためのバスとして生きてくる

乗り換える人たちを支えるための施設の設置などがまちづくりとして展開されることにより、利用者と地域の人たちがつながり、地域も活性化する。

のりのりマップの活用

小中学校の総合教育教材としての活用

福井市教育委員会の協力の下、福井市立小中学校へ「のりのりマップ」を各20部ずつ配布し、総合教育の教材としての活用を検討していただいた。この結果、福井市大安寺小学校6年生が、バスを利用した福井市中心部の社会見学に利用した。

・・・バス電車利用者への総合情報提供サイト

(参考：事業者の時刻表：路線毎にあるが、同じところを通るバスの時刻さえわからない)

協働(リンク)で充実させよう、みんなの交通情報「ばすでんしゃねっと・ふくい」

バスマップ作成による効果と課題調査

資料編

< 参考資料 1 >

小中学校への配布案内、配布状況

< 参考資料 2 >

「地方都市における意識面への働きかけによる交通行動変容の可能性に関する研究」

< 参考資料 3 >

「モビリティ・マネジメントに関するプリサーベイ結果」

< 参考資料 4 >

バスマップサミットのパンフレット